



第 2 号

1987年3月

岡山県古代吉備文化財センター

西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



（倉敷市二子）

二子14号墳の発掘調査

二子14号墳は、倉敷市街の東方約6km、足守川下流の西岸にあたる丘陵上に位置しています。標高は約81mで眺望はよく、上東遺跡など数多くの遺跡が点在する広い平野を眼下に見下すこ

とができます。この古墳は、山陽自動車道の建設に先だって行われた分布調査によって新たに見つかったもので、発見時は横穴式石室をもつ径10mほどの円墳とみられていました。ところ

が、昭和61年5月から実施された発掘調査によって、岡山県はもちろん中・四国地方でも数少い終末期（7世紀中頃）の方墳であることが明らかになりました。以下その概要を紹介します。

古墳はややいびつな方形をしており、土を盛って二段につくられています。下段は東西13.4m・南北11.8m、上段は東西7.6m・南北7.4mほどで、各段とも石垣状の石積みをめぐるしています。これは、やや大きめの平石をたててならべた上に、小さな石を5～6段積みあげたもので、高さは0.8～1.2mほどあり、正面にあたる南側は、横長の石を用いて特に丁寧につくられていました。古墳の中央に築かれた横穴式石室は、全長4.4mで南に入口を設けています。棺を納める玄室は、長さ3.4m・幅1.3m・高さ1.3mで、奥壁は一枚石をたて、側壁には大きな石を2段に積んでつくられています。天井は3枚の大石でおおわれ、床には平石が敷かれていました。床の中央には木棺が置かれていたようですが、すでに腐ってなくなっていました。通路にあたる羨道は、長さ1m・幅1.2m・高さ1.3mで、玄室よりもやや狭くなっています。側壁は、大きな石をすえた上に横長の石を積みあげており、天井は玄室の高さにあわせて一枚石のせています。石垣状の石積みがとりつく羨道



石室入口を塞ぐ一枚の平石

の入口は、幅1.3mと羨道より左右に広がっており、大きな一枚石で閉ざされていました。

古墳のまわりには、幅3m・深さ1.5mの溝が正面を除く三方をコ字形にめぐっています。この溝の北側には、丘陵を掘削して幅4mほどのテラスが設けられ、墳丘の全面も広い範囲にわたって平坦に削られており、古墳の築造にあたって大規模な造成が行われたようです。

遺物はおもに石室内から出土していますが、盗掘にあったためかあまり多くなく、わずかに須恵器と呼ばれる焼き物や棺を組みたてるのに用いられた鉄釘が出土したにすぎません。この須恵器は、その形やつくり方から7世紀中頃のものと思われ、この古墳のつくられた時期を知



墳丘のまわりに積み上げられた積石の状態

るうえで重要な手がかりになっています。

以上のように二子14号墳は、石垣状の石積み
を二段にめぐらした方墳で、小形で整美な横穴
式石室を備えています。それではこのような古
墳に葬られたのはどのような人物だったので
しょうか。二子14号墳とよく似た構造をもつ古
墳は、大阪・兵庫など畿内地方を中心にして分
布しており、これらは当時の畿内政権を支えた
官僚達の墓とされています。二子14号墳の主
もおそらくは畿内政権と密接に結びつき、
その官僚制に組みこまれていった在地の有力
者であったものと思われます。

いずれにしても、二子14号墳は調査例の少
い終末期の古墳を考えるうえで重要である
だけでなく、当時の吉備地域の状況を知る
うえでも貴重な資料であり、今後の研究に
重要な役割を果たすことが期待されます。

(井上弘、亀山行雄)



古墳の石室内



古墳の平面図

センターの年間事業（昭和61年度）

昭和61年度に実施した当センターの発掘調査事業のうち主なものの概要は次のとおりである。大規模開発に伴う受託事業関係から記す。旭川放水路改修に伴う百間川遺跡群（岡山市）は今年度で第11次調査となった。今年度は当初の調査計画では沢田遺跡左岸低水路のみであったが年度に入ってから建設省のたび重なる工事工程の変更と工事中発見遺跡の対処などの不測の事態が相つぎ、最終的には沢田遺跡の右岸低水路と今谷遺跡の右岸低水路が加わり、当初計画の左岸低水路はその一部を次年度に繰り越すこととなった。工事中発見された今谷遺跡の中世貝



百間川今谷遺跡 中世貝塚(岡山市)

塚は、北前樋門工事においてすでに掘削されたものを緊急に調査した。調査の結果、古代末から中世にかけての大溝にハイガイを主体とした貝塚が2ヶ所に形成されていることが判明した。溝内からは多量の中世土器や「急々如律令」の墨書がある「まじない木札」も出土している。その他今谷遺跡右岸低水路は、2地点の調査区があり、下流部の中世貝塚よりの調査区では、弥生後期の水田と中世の集石を伴う溝状遺構等を調査した。また今谷橋上流部の調査区においては弥生時代中期から中世にかけての溝、土壇掘立柱建物などの遺構を調査した。沢田遺跡右岸低水路部の調査では3パーティー入り、それぞれ調査期間がずれる体制で調査した。いずれの調査区においても弥生時代後期の水田跡がひろがっている。一部においてその下層に少量で

あるが縄文時代晩期の土器片を出土する包含層も調査した。その他鎌倉時代の大溝も検出している。沢田遺跡左岸調査区は3地区に分かれ約5000㎡強を調査した。これら調査区は微高地ないし微高地縁辺部にあたる場所であるが、従来



百間川沢田遺跡 弥生前期水田跡(岡山市)

から検出されている弥生時代後期の水田跡はいずれの調査区でも検出された他に、縄文時代晩期から中世にいたる多数の遺構を調査した。上流部のD～F区では、古墳時代初頭の住居跡、井戸の他、同前半期の掘立柱建物や径3cmの素文鏡を出土した土壇などが調査された。また、下層部の調査では、弥生時代前期の土壇墓1基や方形大形墳などの調査がされている。L～O区では、弥生時代前期末から中期初頭までの限られた時期の土壇墓が10基検出されており、中には木棺痕跡をとどめるものもある。同期の居住域は、周辺で確認されていないが、当該地は



鍛冶屋遺跡 中世建物跡(笠岡市)

接近した時期の墓域として形成されたものと推定される。また、縄文時代晩期の土壇及びピットも検出している。さらに下流にあたるT~X区では弥生時代後期の水田の下層に同中期の水田がありさらに、その下部に弥生時代前期中葉と後葉の2面の水田層が確認され全面調査がなされた。水田は長辺を南西~北東方向にとる長方形の小区画水田(平均5×2m)であることが判明した。以上が百間川遺跡群における調査で注目される遺構、遺物である。

山陽自動車道建設に伴う発掘調査は、建設省施工部と日本道路公団施工部の二事業主体に分けて調査を実施した。建設省関係では笠岡インタ



菅生小裏山遺跡 縄文晩期土壇(倉敷市)

ーチェンジ予定地に所在する鍛冶屋遺跡(笠岡市)を前年度に引き続き広範囲にわたって調査した。調査の結果、第2調査区では近世の屋敷跡が第3調査区では弥生時代中期から中世までの竪穴住居跡、掘立柱建物、溝、井戸、炉、土壇墓などの遺構が、第4調査区では古墳時代後期から中世に至る竪穴住居跡、掘立柱建物、



矢部古墳群A 38号墳(倉敷市)

溝、土壇墓などの遺構が調査された。

日本道路公団関係では、菅生小学校裏山遺跡(倉敷市)を昨年度に引き続き横穴式石室墳1基と集落跡等の全面調査を実施した。特に、東



矢部古墳群B 47号墳(倉敷市)

面する山裾部の傾斜地から低地となる傾斜変換部位において、縄文時代の貯蔵穴や古墳時代中頃の溝が検出された。縄文時代の貯蔵穴は遺構の遺存状態が悪く径約1m、深さ15cm程度の円形のもので、中には底部付近に小枝を敷きその下部にドングリの実が入っていた。また、南北に走る古墳時代中頃の溝から大量の土師器等によって朝鮮半島系土器や初期須恵器が発見され、注目された。山裾部では奈良時代~平安時代の掘立柱建物も検出している。二子14号墳(倉敷市)は、路線決定後の分布調査によって発見されたもので、発見時は石室の天井石が露出しており、径10m程の円墳と考えられていた。調査の結果、古墳は標高81mの丘陵先端部に位置する1辺13mほどの方墳で、墳丘は二段に築かれ各段に石垣状の石積をめぐらし、小形であるが整美な横穴式石室であることが判明した。中国地方では数少ない終末期の古墳である。本古墳は昭和62年1月道路公団との協議の結果、移築保存と、決定された。矢部古墳群A(倉敷市)は、日差山山塊の東尾根筋にあたる調査区で、4基の横穴式石室墳と、古墳時代前半期の墳墓群を調査した。矢部古墳群B(倉敷市)はAの北尾根筋に所在する遺跡で、6基の古墳と箱式石棺1基ならびに弥生時代の住居跡1、掘立柱建物2を調査し、一部は62年度に残すこととなった。古墳からの出土遺物中に特殊器台形埴輪がある。

山陽自動車道倉敷～岡山間のうち、岡山西インターまでについては工事施工を急ぐという状況に責められ、昭和61年12月～昭和62年2月初旬にかけて、矢部古墳群A、Bを一時中止して黒住地区（岡山市）と水田部の三手、津寺地区（岡山市）の確認調査を実施した。その結果、黒住地区においては散布地における調査対象範囲を確定したが、三手、津寺地区においては全域に弥生時代～中世にいたる生活面や水田跡が所在することが想定された。



足守川矢部南向遺跡 土器溜り(倉敷市)

本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査は、道路部において稗田佐古遺跡の全面調査を実施し、鉄道部においては、小川散布地の確認調査と木見大賀遺跡の調査を実施した。木見大賀遺跡では、家屋撤去後の調査であり、遺構の残存状況は断片的で良くなかったが、弥生時代から室町期にわたる柱穴、土壇、溝、井戸等を検出した。本四関係ではこれらの遺跡調査により全て終了した。

足守川河川改修に伴う発掘調査は、今年度新たに矢部南向遺跡の調査に入った。本年度調査

対象面積1200㎡であるが、遺跡はすでに調査を終了した上流部の加茂B遺跡と同様に遺構密度が濃く、すでに弥生時代中期～中世の遺構、遺物が多数検出されているが、特に、弥生時代後期～古墳時代初頭にかけてのものが多く、竪穴住居跡30数軒をはじめとして、後期前半の袋状土壇群、後期後半の長方形土壇群などや、弥生時代後期後半の特殊器台片をはじめとする同期の大量の土器が出土している。

国庫補助事業は美土路遺跡（大原町）、桑瀬遺跡（湯原町）、土佐貝塚他（邑久町）の三遺跡を調査した。いずれも圃場整備事業に伴う事前の確認調査である。美土路遺跡では鎌倉時代前半を主体とする溝、柱穴群、土壇などを検出した。中世の屋敷跡等が想定される。桑瀬遺跡では縄文時代の土器が出土し、中国山地における数少ない縄文土器出土地点にさらに1地点追加することが出来た。土佐貝塚他の遺跡群は、広大な千町平野の周辺部の遺跡調査で、それぞれの遺跡の実態を解明した。

緊急対応ならびに市町村指導事業関係の塚の平古墳他（中央町）では弥生時代後期の住居跡3軒、横穴式石室墳1基、中世塚1基を調査した。堂の前遺跡（美甘村）は昨年度町営住宅造成中に発見され、今年度は復元住居を予定しての発掘調査である。重複する二軒の弥生時代後期の住居跡を調査し、その内、径10mの竪穴住居を復元住居として建築することとなった。田治部屋敷跡（新見市）は、中世多治部氏の根小屋の一部の調査である。掘立柱建物、礎石建物など多数の遺構と、縄文時代後、晩期～中近世までの遺物



田治部屋敷跡 建物跡(新見市)

が大量に出土している。その他、カキ谷古墳群1号墳(津山市)、鳩ヶ岩山古墳(岡山市)、環境整備を伴う特別史跡閑谷学校(備前市)の発掘調査など年間数多くの調査を実施した。

普及啓発事業

夏休み少年考古教室をセンター開所以来初めて実施した。対象はセンター近くに所在する陵南小学校6年、5年生の内40名に限定し、8月21、22日の2日間で行った。その日程は右記のとおりである。

子供達の感想は全般に好評であったが、準備については色々問題点を残した。

埋蔵文化財担当職員研修会は62年1月20日に実施した。講師として文化庁岡本東三調査官を招き、「開発と文化財保護」というテーマで講演を行なった。今年度は1日のみの研修であったので会場は岡山県立博物館講堂で行った。43市町村49名の参加があった。

また発掘調査現場における現地説明会は、二子14号墳、菅生小裏山遺跡等で実施した。

以上のほか、当文化財センター展示室は多くの人々に利用されている。

(河本 清)

日程

第1日	8月20日(水)	第2日	8月21日(木)
10:00	開講式	10:00	体験学習(2) ・火おこし実験
10:20	センター施設見学		・土器による塩づくりの実験
11:10	考古学入門		・土器による米、イモ等を煮る実験
12:00	昼 食	12:00	昼 食
13:00	体験学習(1) ・粘土板への文様づけ ・拓本のとり方 ・土器の復元	13:00	体験学習(3)
15:30	映画 『縄文土器』	13:30	足守川久部南向日跡見学
16:00	かたづけ	15:00	閉講式



縄文人は器用だったんだなあ。



ウーンパズルよりむずかしいな。



なかなか火がつかない。おなかがすいたなあ。



これで塩が採れるのかな。

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表(昭和61年度)

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	備考
1	百間川沢田遺跡	岡山市沢田	河川改修	4月1日～3月31日	弥生前・中・後期水田跡ほか
2	百間川今谷遺跡	〃 今谷	〃	〃	中世貝塚、弥生後期稲株痕
3	鍛冶屋遺跡	笠岡市小平井	山陽自動車道建設	4月1日～1月31日	弥生中期～近世集落跡
4	養生小学校裏山遺跡	倉敷市西坂	〃	4月1日～3月31日	奈良～中世集落跡、横穴式石室
5	三田散布地	〃 三田	〃	4月	確認調査
6	二子14号墳	〃 二子	〃	5月1日～8月12日	終末期方墳
7	矢部古墳群A	〃 矢部	〃	4月1日～3月31日	前期古墳6、横穴式石室4、箱式石棺他
8	矢部古墳群B	〃 矢部	〃	8月12日～3月31日	前期古墳5、箱式石棺、弥生集落跡
9	津寺黒住地区1次調査	岡山市津寺、黒住	〃	12月8日～1月31日	確認調査
10	三手津寺地区1次調査	〃 三手、津寺	〃	1月10日～2月12日	〃
11	小川散布地	倉敷市児島小川町	本四連絡橋陸上ルート	4月8日～4月25日	〃
12	木見・大賀遺跡	〃 木見	〃	5月、7月1日～12月13日	中世建物、弥生包含層
13	足守川矢部南向遺跡	〃 矢部	河川改修	4月1日～3月31日	弥生～古墳集落跡
14	塚の平古墳	中央町打穴里	宅地造成	4月～5月18日	古墳、弥生集落跡、塚(近世)
15	カキ谷B1号墳	津山市種	県道改良工事	4月～5月19日	円墳(横穴式石室、陶棺)
16	玉井山相遺跡ほか	瀬戸町観音寺	短大建設	4月～5月17日	古墳～中世集落跡、横穴式石室確認
17	丸島2、4、5号墳ほか	熊山町沢原	統合中学校建設ほか	5月19日～8月12日 12月3日～1月24日	弥生墳丘墓、5世紀代古墳ほか
18	旧園谷学校	備前市園谷	整備事業	5月21日～7月2日	近世学校跡
19	美土路遺跡ほか	大原町川上	園場整備事業	5月19日～7月12日	中世集落跡
20	堂の前遺跡	美甘村	整備事業	8月25日～9月30日	弥生～古墳集落跡
21	弓削廃寺	久米南町下弓削	小学校造成	8月18日～8月30日	伽藍の一部初めて確認
22	田治部氏屋敷跡	新見市上熊谷	県道バイパス	7月6日～10月19日	中世館跡、縄文晩期包含層
23	田ノ浦遺跡	笠岡市白石島	防波堤	7月17日～7月18日	中世包含層(製塩土器)
24	鳩ヶ岩山古墳	岡山市三和	新空港建設	8月1日～11月29日	円墳(横穴式石室)
25	桑瀬遺跡ほか	湯原町種	園場整備事業	7月、10月13日～12月5日	確認調査
26	荒堀古墳	新見市上市	小学校造成(移築)	10月20日～11月8日	箱式石室
27	土佐貝塚ほか	邑久町本庄	園場整備事業	11月10日～1月31日	確認調査
28	津島江道遺跡	岡山市津島	青年館建設	3月5日～	集落跡

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花見1325-3
電話 (0862)93-3211

●交通案内

- ・国鉄山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・国鉄吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・国鉄岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分

